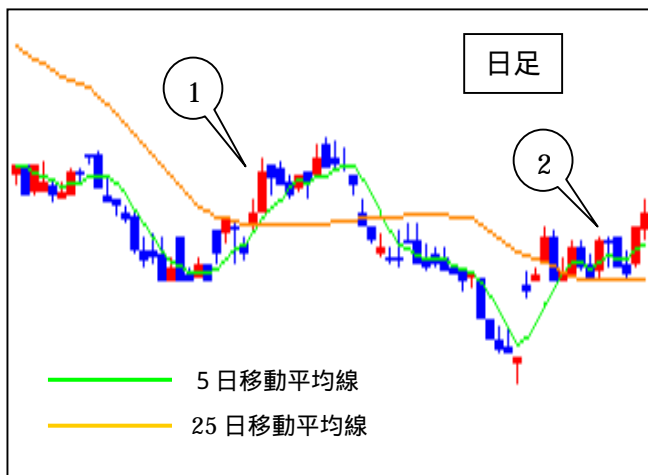
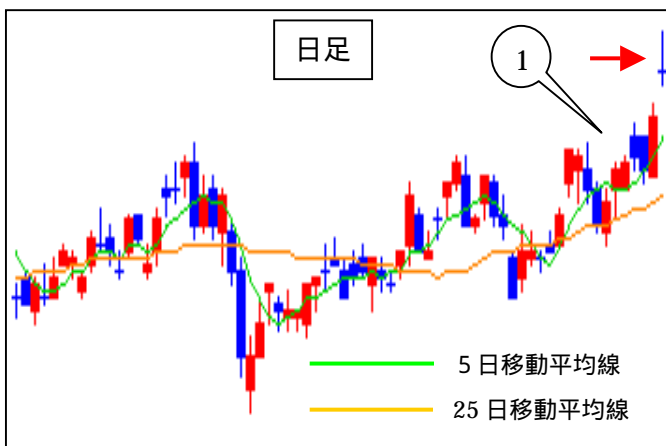


週足チャートと日足チャートの活用方法



まず日足チャートの の上昇部分をご覧ください。日足チャートしか見ていなければ明らかに上昇トレンドに見えると思います。しかし週足チャートで同じ時期を見てみると(の部分) 13・26 週移動平均線共に下降中です。このような場合は単なる戻り相場であり、その戻りも 13 週線又は 26 週線までとなるケースがほとんどです。このチャートでも 13 週線まで戻した後更に下落しております。次に日足チャートの をご覧ください。この場合も前回同様週足チャートの同じ時期(の所) を見てみると、やはり 13・26 週移動平均線共に下降中です。結果は言わなくてもお解り頂ける事と思います。中長期的なトレンドを示す週足チャートが好転しない限り、日足チャートが好転してもそれは上昇相場ではなくて短期的な戻りと考えた方が良いでしょう。又永遠にこのパターンが続く訳でも無く、いつか株価が 13・26 週移動平均線を上回って来れば相場転換も近いと言えるでしょう。

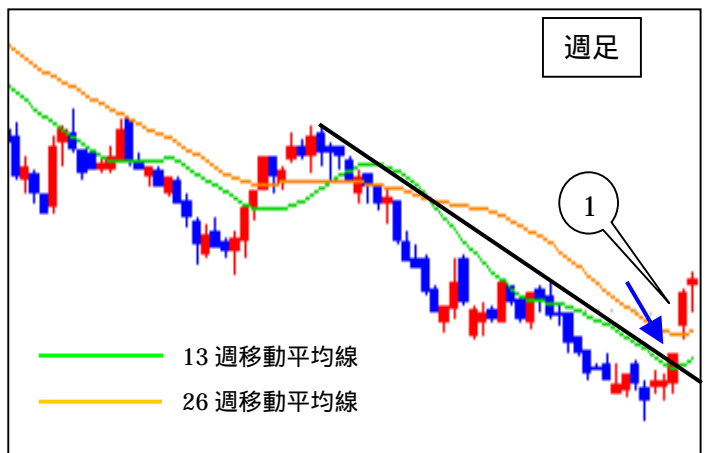
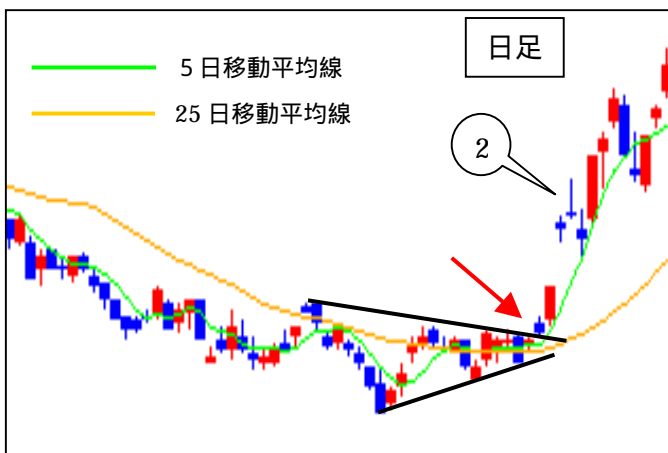


上のチャートをご覧ください。日足チャート の部分が週足チャート の所になります。週足チャートを見てみると株価が 13・26 週移動平均線の上に位置しており、13・26 週移動平均線もゴールデンクロスしています。日足チャートでも移動平均線が上向きに推移している事から買いシグナルを発信している事が解ります。この様に日足・週足チャート両方共買いシグナルが出ていれば本格上昇が始まると考えて良いと思います。タイミングとしては少し遅れますが安全重視の投資判断と言えます。上の日足チャートでは直近ローソク足が「上放れ十字線」ですので(赤い矢印)この後 25 日線近辺まで下げて来た所が「買いのタイミング」となる事を忘れないで下さい。慌てて飛び買いをするのではなくて、必ず下げて来た所での「押し目買い」と言う事を体で覚える事が重要と言えるでしょう。



週足 の所の日足の状態が の所です。この場合も日足チャートではいかにも上昇が続く様な錯覚に陥るかもしれませんが週足チャートを見ればこれは単なる戻りで有る事が一目瞭然です。中長期のトレンドを表す 13 週・26 週移動平均線が下降している間は株価の上昇も限定的と言えます。この様に週足チャート、日足チャート両方を使って株式分析をする事で誤った判断を下す事が避けられます。片手落ちでは折角の分析努力も水泡に喫してしまうのです。

移動平均線を使って投資判断をする場合はまず週足チャートで中長期的なトレンドを確認する事が重要です。週足チャートで買いシグナルが出ればいつ買うかのタイミングを日足チャートから読み取るのです。



週足チャート の部分が日足チャート の所になります。週足チャートでは株価が 2 本の移動平均線の上に出た事で「買いシグナル」の 1 つはクリアした事になります。後はゴールドクロスと移動平均線での反発を確認出来れば上昇トレンド入りと見て間違いないでしょう。慎重派の投資家の方にはこのやり方が適していると言えるのですが、やはり多くの投資家の方はこの上昇初動を買いたいと思うのではないのでしょうか。

そんな投資家の方にお勧めなのが「移動平均線」と「保ち合い放れ」と「トレンドライン」を組み合わせた分析方法です。上のチャートで説明すると、週足チャートでトレンドラインを突破した時(青い矢印)株価は 13 週移動平均線を上回っており、日足チャートでは保ち合いを上げ放れ(赤い矢印)で、更に 25,75 日線がゴールドクロスをしています。これだけの「買いシグナル」が出ていればまず間違いなく株価は上昇すると考えてよいでしょう。この様に「移動平均線」「保ち合い放れ」「トレンドライン」この 3 つを使い、更にはローソク足の読解も利用すれば申し分のない「完全武装」と言っても良いでしょう。